

## 平成25年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(テーマ編)の概要

11月6日(水)に三重県四日市庁舎で「みえの現場・すこいやんかトーク」(テーマ編)を開催しました。

当日は、「常磐まちづくり会議」の皆さん8名の皆さんにお集まりいただき、「地域と防災」というテーマで、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



### 【参加者からの発言】

#### (「常磐まちづくり会議」の活動内容紹介)

- 常磐地区の連合自治会や社会福祉協議会など、様々な団体と協力して常磐の防災の啓発活動に一丸となってやっていたということでスタートした。
- 誰かに頼るのではなく、自分でできることはまず自分たちでやりましょうということで、この防災の啓発活動を中心に行っている。

#### (防災アンケート調査について)

- これまで防災対策を行ってきたが、住民の防災意識が上がらなかった。原因を考えると啓発ができていないということが分かった。
- 啓発することを活動目標にして、住民意識や防災活動の考えなどのアンケートを自治会内で行った。その結果、行政の避難指示や避難警告に従うとした回答が多く、行政の役割が非常に大きいことが分かった。
- 防災教室があれば参加すると回答した方も多かったので、どう展開していくかが課

題である。

[知事の発言]

- 東日本大震災直後のアンケートでは、防災意識が高かったが、1年後のアンケートでは低くなり、意識が薄れている。意識を高く保つことは困難なので、「防災の日常化」を意識し、日常の中に溶け込ませようと取り組んでいる。
- 常磐地区の防災対策や意識は、全県的には高い方である。
- 啓発の取組は県も悩んでいるところである。何が原因かを分析し、繰り返し啓発を行うことが大事だと思う。

(災害時の正確な情報の取得と共有化について)

目に見える具体的な啓発活動を行うため、携帯電話やチラシ、パンフレットなどを活用して情報の共有化を図っている。

P T Aの協力を得て、新入生の保護者に携帯電話の登録を働きかけ、普及に力を入れている。

[知事の発言]

- 防災メールを利用した取組は非常に有効性が高いと思う。若い世代を取り込んで高齢者の登録を手伝ってもらうようにするのは良い方法だと思う。
- 単に登録だけ呼びかけるよりは、チラシに「役だったエピソード」も一緒に加えると共感が連鎖し、広まっていくと思う。

(小学校の子を持つ親の目からみた防災について)

下校時はP T Aの役員が付き添っていたが、役員の負担が大きく、専業主婦の方も少なくなっている。

四日市市では「すぐメール」というシステムがあり、下校時に保護者へメールが届くようになっている。このシステムが保護者の方に浸透してきており、メールを受け取った保護者が外に出て、下校時に児童を見守ってくれたことがあった。

[知事の発言]

- 実際に人が動いてくれたのはすごいことであり、繰り返しお願いしてきた成果だと思う。
- 子どもたち自身が自分で守れるような訓練をすることも大事だと思う。大紀町では登下校中に子どもが自分を守れるように、子どもたちが防災について話し合い、防災の訓練をしている例もある。

(中学校の子を持つ親の目からみた防災について)

中学校では集団下校はしておらず、災害時に家族と離れ離れになったときに、どこに集まるか話をしておくことが大事である。

自分の命は自分で守りそのうえで、小さい子どもや高齢者を手助けできるときは助ける判断力や行動力を常日頃から養うことが大切である。

鹿化川は注意報程度の雨が降っても増水するので、早急な対応をお願いしたい。

[知事の発言]

- 鹿化川については、整備の必要性は聞いているので、人家との接近状況などを判断

して限られた予算の中で、優先順位をつけて行っていきたい。

- 防災ノートに「小学校低学年はまず自分の身を守ること。」「小学生高学年は自分と家族を守る。」「中学生は自分と他の人を手助けすること。」と記載している。中学生には可能なら、高齢者の手助けができるようになってほしい。

(常磐地区の防災に関する啓発活動について)

常磐地区は避難場所が非常に少なく、キャパが4.1%しかないので、避難場所が1地区1箇所となるよう推進している。土地や施設の問題は、自治会だけでは解決できないので、市や県、国の力を借りて避難場所を確保していきたい。

[知事の発言]

- 1地区1箇所とするのは分かりやすい。避難所の選定、運営で協議するときの助言が必要であれば、県の防災対策部の職員を派遣させる。民間や県の施設が使えるかも協議していきたい。命を救うのに行政の縦割りは関係ない。

(常磐地区の水害について)

三重県は台風銀座で、最近は集中豪雨も増加している。常磐地区は水害が心配される地区で、過去には三滝川、鹿化川も決壊している。降雨量の基本条件の見直し、河川改修、特に鹿化川の拡張工事、堤防の強化などの対策が必要と考えており、強くお願いしたい。

[知事の発言]

- 降雨量の基本条件の見直しは、近年の状況を踏まえながら対応をしている。河川の改修や堤防の強化については、県全体の優先順位を見て、建設事務所が連携して取り組んでいる。優先度の情報を県民の方にお知らせするために、松阪、伊賀、尾鷲の事務所では、情報共有の仕方のトライアルを実施しており、来年度には全県的に行う。

(災害時における要援護者への支援について)

災害時要援護者カードを作成しているが、支援者をとりあえず自治会長や民生委員の名前を書いている人がいる。きちんとした形で作っていかないと災害が起きた時に本当に守れない。

自治会にも入っていない人が増えている中で、要援護者を全員救済していくためにはどうすればいいか、みんなで考えていかないといけない。

[知事の発言]

- 支援者の欄を埋めるのが大変なのはよくわかる。
- 大台町では10年くらいかけて、誰を支援するか全て調査してきた。県や市では要援護者にどう対応していくのかは重要な点である。



**【常磐まちづくり会議の皆さん】とは**

「常磐まちづくり会議」は、常磐地区のまちづくりの推進と地域連帯意識の高揚を図り、心ふれあう魅力ある常磐地区を実現することを目的とする皆さんです。